

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組	実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）				
（１）介護予防の充実												
①	介護予防・フレイル予防の充実		新規	○現役世代の生活習慣病対策と介護予防の連携した取組の実施	65 歳のかたで、社会とのつながりがないかたに対し、保健師や管理栄養士がアセスメントシート等を使って個別に相談に応じる。状況に応じて、適切な医療・介護サービスなどにつないでいく。 65 歳（過去 5 年間健診・医療・介護の受診履歴のないかた） 12 人訪問 11 人訪問、1 人郵送。 2 人次年度も継続訪問予定。 65 歳以上のかたの心身機能向上や地域社会生活への参加を促すため介護予防事業を実施している。県の認知症予防プログラム開発実証事業に参加し、運動・座学・知的活動を組み合わせたプログラムをモデル事業として 2 地区に実施した。 【実績】 ＜参加者数（延べ数）＞ ○介護予防教室 252 回 7,608 人 ・はつらつ教室 180 回 5,427 人 ・脳とからだの若返り教室～コグニサイズ～ 39 回 970 人 ・フレイル予防教室 12 回 418 人 ・ミュージック・ヒーリング 12 回 711 人	65 歳のかたで、社会とのつながりがないかたに対しての訪問は実施していない。（69 歳、74 歳のかたに対してのみ実施） 65 歳以上のかたの心身機能向上や地域社会活動への参加を促すため介護予防事業を継続して実施した。 また、昨年度にモデル事業で実施した認知症予防プログラムを未実施地区に拡大して実施した。 【実績】 ＜参加者数（延べ数）＞ ○介護予防教室 252 回 7,683 人 ・はつらつ教室 180 回 5,857 人 ・脳とからだの若返り教室 4 地区 423 人 ・コグニサイズ 12 回 349 人 ・いきいき教室 6 回 191 人 ・ミュージック・ヒーリング 12 回 795 人	65 歳の対象者は、職場の健診を受けているかたや、昨年まで社保のかたが多かったため、令和 7 年度は訪問を実施しなかった。 実施内容を見直すことで、教室のマンネリ化を防ぐことができている。しかし、多くのかたに参加してもらうために、継続して普及啓発を行っていく必要がある。	次年度、健（検）診受診につながっているかどうか確認していく。 住民のニーズに合わせて、介護予防教室の周知方法や教室内容、開催方法を検討し、実施する。	けんこう課 かいご課	P66～ P68		
	＜評価指標＞											
	事業	現状									目標 2026 年度	
	「出前講座」による講師派遣	63 回									75 回	
	出張栄養相談者数	0 人									10 人	
	一般介護予防事業の参加者数	6,396 人									6,500 人	
	まちあい保健室参加者数	延べ 613 人									延べ 700 人	
	介護予防サポーター活動者数	28 人									30 人	
	栄養士による栄養教室の実施回数	3 回									10 回	
	出前講座「高齢者向けオーラルフレイル」開催回数	3 回/年									10 回/年	
	後期高齢者のうち健康状態不明者数（5 年間医療・健診・介護情報なしのかた）	63 人									第 8 期より減少	
	ニーズ調査結果	対象者									現状	目標 2026 年度
	階段を手すりや壁をつたわずにのぼれない割合	一般高齢者									17.7%	10.0%
		事業対象者									51.4%	45.0%
		要支援認定者									76.1%	70.0%
	過去一年間に転んだ経験のある割合	一般高齢者									34.6%	25.0%
		事業対象者									57.8%	50.0%
		要支援認定者									64.6%	60.0%
	転倒に対する不安の大きい割合	一般高齢者									51.4%	40.0%
		事業対象者									85.3%	70.0%
		要支援認定者									92.7%	85.0%
	高齢による骨折・転倒で介護が必要になった割合	一般高齢者									19.9%	15.0%
		事業対象者									27.4%	23.0%
		要支援認定者									29.6%	25.0%
	高齢による衰弱で介護が必要になった割合	一般高齢者									17.5%	15.0%
		事業対象者									33.9%	25.0%
		要支援認定者									22.7%	20.0%

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組		実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）
				・島はつらつ教室（体操・ミュージック） 9 回 82 人 ○楽しく栄養教室（講話・試食）4 回 319 人 ○楽しく料理教室（講話・調理実習）1 回 19 人 ○70 代からはじめる 脳とからだの若返り教室 2 地区 57 人	・島はつらつ教室（体操・ミュージック） 9 回 68 人 ○楽しく栄養教室（講話・試食）4 回 330 人 ○楽しく料理教室（講話・調理実習） 3 回 58 人			かいご課	P66～ P68
			○「出張栄養相談」の実施	介護支援専門員等と支援を要する対象の情報を共有し、必要に応じて栄養士が個別に訪問して栄養相談を行った。 また、保健事業と介護予防の一体的な取組である低栄養予防事業を卒業したかたのフォローとして、自宅へ出向いて個別相談を実施した。 【実績】20 人 支援延べ回数 51 回	介護支援専門員等と支援を要する対象の情報を共有し、必要に応じて栄養士が個別に訪問して栄養相談を行った。 また、保健事業と介護予防の一体的な取組である低栄養予防事業を卒業したかたのフォローとして、自宅へ出向いて個別相談を実施した。 【実績】15 人 支援延べ回数 32 回	多職種と連携を取りながら実施することができた。一方で一般市民に対する周知が十分できていない。	まちあい保健室や、出前講座等の機会を生かし、出張栄養相談の周知を図り、利用しやすい体制づくりを行う。	かいご課	P66～ P68
		拡充	○多職種による、通いの場での介護予防に関する普及啓発	「坂出市通いの場（仲間づくり）MENU 表（地域の医療機関や介護事業所等に所属するリハビリ専門職等が通いの場に出向き、無償で介護予防等に関する講話や実技を実施）」を作成し、地域における介護予防の取組への支援を行った。 【実績】 協力団体数：15 団体 派遣回数：12 回	「坂出市通いの場（仲間づくり）MENU 表」を、坂出市社会福祉協議会を通じて地域の仲間づくりに配布し、地域で取り組まれている介護予防の支援を行った。 【実績】 協力団体数：15 団体 派遣回数：9 回	地域で活躍する医療・介護等の多職種が通いの場に参加する仕組みの構築ができ、介護予防の内容が充実した。	地域における「坂出市通いの場（仲間づくり）MENU 表」の認知度が低いため、普及啓発を行うとともに、多職種団体への協力を依頼し、内容の充実を図る。	かいご課	P66～ P68

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組		実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）
			○気軽に相談できる体制づくりの充実	出前講座において、高齢者にとって関心がある身近なテーマ内容の講話を実施し、個別相談に応じた。 また、地域の通いの場に保健師やリハビリ職が出向き健康教育や相談を実施した。 【実績】 ・出前講座 50 回 ・通いの場 39 回 身近な場所で気軽に相談できるよう、地域の公民館等に月 1 回「まちあい保健室」を開設。3 か月に 1 回は会場を 11 か所に増やし、健康チェック（骨密度測定など）を実施している。 開催回数 118 回 延べ参加者数 462 人	出前講座において、高齢者にとって関心がある身近なテーマで講話し、その後に個別相談にも応じた。 また、地域の通いの場にリハビリ職や保健師が出向き、健康教育や相談を実施。 【実績】 ・出前講座 52 回 ・通いの場 74 回 身近な場所で気軽に相談できるよう、地域の公民館等に月 1 回「まちあい保健室」を開設。3 か月に 1 回は会場を 11 か所に増やし、健康チェック（骨密度測定など）を実施している。 開催回数 118 回 延べ参加者数 699 人	専門職が地域に出向き、出前講座や栄養教室、通いの場などさまざまな場面で相談を実施することで、市民が気軽に相談しやすい体制ができている。 健康チェックにより、健康づくりの意識向上が図れた。 また、翌月の栄養講習の実施により、その後の予防行動に移せるフォロー体制が作れた。 糖尿病性腎症重症化予防講演会後の個別相談の場としたことで、より個々に応じた栄養相談が実施できた。	今後もさまざまな機会を捉え市民が相談しやすい体制づくりを行う。 まちあい保健室が、地域の相談場所としてさまざまな世代にも認識されるよう、国保事業にも活用できるよう検討していく。	かいご課 けんこう課	P66～ P68
		継続	○オリジナル体操「ころばんで体操」の普及啓発	「出前講座」や「脳とからだの若返り教室」、「介護予防サポーター養成講座」での体操指導や、「介護の日」での DVD の活用、高齢者訪問でのチラシの配布等により、「ころばんで体操」の普及啓発を図った。	「出前講座」や「脳とからだの若返り教室」、「介護予防サポーター養成講座」での体操指導や、高齢者訪問でのチラシの配布等により、「ころばんで体操」の普及啓発を図った。	さまざまな機会を捉え、集団・個別両方のアプローチで幅広い層に普及啓発ができた。	今後もさまざまな機会を捉えて普及啓発に努める。	かいご課	P66～ P68
			○介護予防サポーター養成など地域での担い手づくり	介護予防の知識を身につけ、地域における介護予防活動を推進する担い手として、介護予防サポーターと栄養サポーターを年 1 回養成した。	継続して、地域の担い手となる介護予防サポーターおよび栄養サポーターを養成し、フォローアップ研修も行った。	養成講座を通じて、自らの健康・介護予防・生きがいのづくりについて関心を持つ機会を提供できた。	活動しているサポーターの高齢化が進んでいることが課題である。	かいご課	P66～ P68

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組		実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）
				養成後は、市主催の教室や地域で活動しており、サポーターのスキルアップを目的にフォローアップ研修も 1 回実施した。 【実績】 ・サポーター養成講座受講者 12 人 ・研修会参加者 30 人 ・サポーター活動人数 27 人	【実績】 ・サポーター養成講座受講者 3 人 ・研修会参加者 30 人 ・サポーター活動人数 33 人		今後もサポーターが生きがいをもちながら、地域で介護予防について取り組み、高齢者の生活を支える担い手として活躍できる場の提供を支援していく。	かいご課	P66～ P68
		○「出前講座」を通じたフレイル予防・介護予防に関する普及啓発	「出前講座」だけでなく、地域の通いの場において、フレイル予防・介護予防に関して実技を含めた講話を行い、介護予防の重要性を普及啓発した。 【実績】 介護予防等に関する講座 79 回 837 人	「出前講座」や地域の通いの場において、フレイルや介護予防に関する講話を行い、介護予防の重要性を普及啓発した。 【実績】 ・「出前講座」における介護予防等 38 回 692 人 ・地域の通いの場における介護予防等 74 回 359 人	出前講座等を通じて、フレイルや介護予防に関する普及啓発ができた。	出前講座の積極的な利用に向け、さらなる普及啓発が求められる。	かいご課	P66～ P68	
		○「さかいで介護の日」での普及啓発	令和 6 年 11 月 16 日にけんこう課の「健幸まつり」と同時開催し、234 人が参加した。計測コーナーや作品展、認知症カフェを実施し、介護予防の啓発を図った。	令和 7 年 11 月 16 日にけんこう課の「健幸まつり」と同時開催した。フレイル・介護予防の普及啓発のため、下肢筋力等の計測コーナーや認知症予防の普及啓発のための認知症カフェコーナーを実施した。 【実績】延べ参加者 390 人	下肢筋力等の計測コーナーへの参加が増加しており、フレイルや介護予防の重要性が浸透している。	開催方法や計測については今後も坂出リハ連携会の協力を得ながら継続していく。	かいご課	P66～ P68	
		○保健事業と介護予防の一体的な取組の推進 ◆転倒予防に特化した事業の実施 ◆認知症予防に重点をおいた取組の実施	通いの場等に医療専門職が関与し、参加者の健康状態を把握し、フレイル・オーラルフレイル予防の普及啓発を行った。 ・関与した通いの場等：22 か所 49 回 延べ参加者 549 人	通いの場等に医療専門職が関与し、参加者の健康状態を把握し、フレイル・オーラルフレイル予防の普及啓発を行った。 ・関与した通いの場等：31 か所 64 回 延べ参加者 803 人	市社会福祉協議会を通じて、市政出前講座を周知し、通いの場等でフレイル・オーラルフレイル予防の健康教育が実施できた。	地域の医療・健診・介護状態の分析結果や通いの場等の活動内容等に合わせて、フレイル・オーラルフレイル予防を中心	けんこう課	P66～ P68	

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組		実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）
			○特定健康診査の受診勧奨	受診勧奨を 3 回実施。 送付数：8 月 4,326 人 9 月 600 人 1 月 3,826 人 特定健診受診率：40.3%	受診勧奨を 3 回実施。 送付数：6 月 1,913 人 7 月 5,293 人 9 月 644 人 特定健診受診率：34.5% (R7.12.26 時点)	今年度から 8 月末までの受診者全員にインセンティブを実施した結果、8 月末までの受診率が昨年度と比べて 4.5%増加している。また、全体の受診率も 1.1%増加している。受診率は向上しているものの、他市町と比べると低い状況である。	次年度も早期受診者に対してインセンティブを設けることで、受診率の向上および継続受診者の増加を図る取組を実施していく。	けんこう課	P69
			○家庭訪問、健康相談、健康教育などのきめ細やかな保健指導の強化	・各種出前講座 49 回実施、延べ参加者数 549 人 ・重複多剤服薬通知 297 人 ・糖尿病性腎症等重症化予防事業 国保対象者 151 人； 後期高齢者対象者 167 人 ・まちあい保健室： 開催回 118 回 延べ参加者数 462 人	・各種出前講座 64 回実施、延べ参加者数 803 人 ・重複多剤服薬通知 261 人 ・糖尿病性腎症等重症化予防事業 国保対象者 111 人； 後期高齢者対象者 138 人 ・まちあい保健室： 開催回 118 回 延べ参加者数 699 人	受診行動適正化指導を訪問により実施することで、対象者の状態を把握し、より効果的なアプローチをすることができている。身近な相談場所を設置し、健康チェックを行うことで健康への関心を高めることができた。	今後も郵送によるアプローチだけでなく、対象者によっては訪問等手段を変えて実施していく。身近な相談場所として継続して行っていく。	けんこう課	P69
			○適度な食事、適度な運動、禁煙などの生活習慣病改善の促進	・栄養相談 3 回実施 参加者数 3 人 ・食生活改善推進協議会での健康教室 6 回実施 延べ参加者数 86 人	・栄養相談 0 回 ・食生活改善推進協議会での健康教育 6 回実施 延べ参加者数 73 人	健康機能向上食品を過剰摂取しているケースが増えている。会員の高齢化や会員数の減少。	日々の食生活を見直し、改善点を見つけることにつなげる。養成講座を実施し、会員数の現状維持につなげる。	けんこう課	P69

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組	実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）							
②	生涯学習やスポーツ活動を通じての生きがいのづくりの推進 ＜評価指標＞ <table><tr><th>事業</th><th>現状</th><th>目標 2024 年度</th></tr><tr><td>ラジオ体操普及拠点数(ミニ広場含む)</td><td>7 か所</td><td>8 か所</td></tr></table>	事業	現状	目標 2024 年度	ラジオ体操普及拠点数(ミニ広場含む)	7 か所	8 か所	継続	○ラジオ体操広場の設置による普及活動	新しい広場を設置することはできなかった。 ラジオ体操広場数 7 か所	新しい広場を設置することはできなかった。 ラジオ体操広場数 7 か所	毎年実施しているラジオ体操大会については、松山小学校体育館において実施できた。	ラジオ体操の普及促進を図っていく。	生涯学習課	P70
		事業	現状	目標 2024 年度											
		ラジオ体操普及拠点数(ミニ広場含む)	7 か所	8 か所											
		○生涯学習フェスタへの参加促進	令和 6 年 11 月に市民ふれあい会館で作品展示やステージ発表を開催した。 また、体験教室を市民ふれあい会館と勤労福祉センターの 2 か所で実施した。	令和 7 年 11 月に市民ふれあい会館で作品展示やステージ発表を開催した。 また、体験教室を市民ふれあい会館と勤労福祉センターの 2 か所で実施した。	2 日間で 2,073 人の参加があり、前年度より増加した。	作品展示、ステージ発表、体験教室を通じて、生涯学習の推進を図っていく。	生涯学習課		P70						
		○生涯スポーツの普及	「ふるさと坂出スポレク大会」に代わる行事として、「坂出スポレクデー」を新規開催した。	「ふるさと坂出スポレク大会」に代わる行事として、「坂出スポレクデー」を開催した。	「坂出スポレクデー」には、多数の参加があり、参加者からも楽しかった等の声があった。	今後も「坂出スポレクデー」の開催等を通じて、生涯スポーツの普及促進を図る。	生涯学習課		P70						
○体力測定の実施	「ファミリー健康体力測定」（瀬戸大橋記念公園）、「坂出スポレクデー」にてシニア・ジュニア体力測定（市立体育館）を実施した。	「ファミリー健康体力測定」（瀬戸大橋記念公園）、「坂出スポレクデー」にてシニア・ジュニア体力測定（市立体育館）を実施した。	参加者の体力年齢の評価やアドバイスを実施し、自身の健康について見つめ直してもらった。	定期的に体力測定ができるよう取り組んでいく。	生涯学習課	P70									
○生きがいのづくりのための各種講演会の開催（老人大学等）	各地区の老人クラブでは、老人大学を自主事業として開催し、さまざまな講義等を行い、高齢者の生きがいのづくりに取り組んだ。	各地区の老人クラブでは、老人大学を自主事業として開催し、さまざまな講義等を行い、高齢者の生きがいのづくりに取り組んだ。	老人大学の各種講義では、介護予防、交通安全、健康づくり等の講義を行っており、高齢者の生きがいや健康づくりの推進につながっている。	継続していく。	ふくし課	P70									

No.	目 標 評価指標（a）	第 9 期計画における 主な取組	実施状況（b） 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況（c） 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 （頁）																	
③	高齢者の活動の推進 ＜評価指標＞ <table><tr><th>事業</th><th>現状</th><th>目標 2026 年度</th></tr><tr><td>「出前講座」による講師派遣</td><td>63 回</td><td>75 回</td></tr></table> <table><tr><th>ニーズ調査結果</th><th>対象者</th><th>現状</th><th>目標 2026 年 度</th></tr><tr><td rowspan="2">週 1 回以上外出している割合</td><td>一般高齢者</td><td>95.4％</td><td>98.0%</td></tr><tr><td>要支援認定者</td><td>74.7％</td><td>80.0%</td></tr></table>	事業	現状	目標 2026 年度	「出前講座」による講師派遣	63 回	75 回	ニーズ調査結果	対象者	現状	目標 2026 年 度	週 1 回以上外出している割合	一般高齢者	95.4％	98.0%	要支援認定者	74.7％	80.0%	新規	○通いの場への多職種による協力支援メニュー表の提供 「坂出市通いの場（仲間づくり）MENU 表（地域の医療機関や介護事業所等に所属するリハビリ専門職等が通いの場に出向き、無償で介護予防等に関する講話や実技を実施）」を作成し、地域における介護予防の取組への支援を行った。 【実績】 協力団体数：15 団体 派遣回数：12 回	「坂出市通いの場（仲間づくり）MENU 表」を、坂出市社会福祉協議会を通じて地域の仲間づくりに配布し、地域で取り組まれている介護予防の支援を行った。 【実績】 協力団体数：15 団体 派遣回数：9 回	地域で活躍する医療・介護等の多職種が通いの場に参加する仕組みの構築ができ、介護予防の内容が充実した。	地域における「坂出市通いの場（仲間づくり）MENU 表」の認知度が低いため、普及啓発を行うとともに、多職種団体への協力を依頼し、内容の充実を図る。	かいご課	P70
	事業	現状	目標 2026 年度																						
	「出前講座」による講師派遣	63 回	75 回																						
ニーズ調査結果	対象者	現状	目標 2026 年 度																						
週 1 回以上外出している割合	一般高齢者	95.4％	98.0%																						
	要支援認定者	74.7％	80.0%																						
	継続	○老人クラブ等への参加促進および活動の多様化 老人クラブに対し、平成 29 年度から、30 人未満の小規模クラブにも独自の助成を行うとともに、活動内容の多様化、若い世代の関心をひくような活動の導入を働きかけた。 【実績】92 クラブ 4,488 人	老人クラブに対し、平成 29 年度から、30 人未満の小規模クラブにも独自の助成を行うとともに、活動内容の多様化、若い世代の関心をひくような活動の導入を働きかけた。 【実績】84 クラブ 3,879 人	老人クラブ等の活動の多様化、参加促進に向けての働きかけができており、仲間づくり活動との連携支援もできている。	老人クラブの会員数は、減少傾向にあるため、各地区老人クラブ会長、地区単位クラブによる会員加入の呼びかけを続けていく。	ふくし課	P70																		
		○小・中学生による地域の福祉施設との交流や行事等における多世代交流の促進 高齢者対象自転車教室、地域防災学習等での活動（小学校） 合奏や紙芝居、ふれあい遊び等、年間（3 回）を通した高齢者との交流会（小学校） ものづくり（うどん、おはぎ、おしずし、もちつき）や昔遊び、ペタンク大会等、体験を通して高齢者から学ぶ交流活動（小学校） 独居老人へ毎月配られる弁当に、小学生が書いた手紙を添えていた だく、地域の福祉活動に協力する活動（小学校）	ものづくり（もちつき、うどん等）や昔遊び（あやとり、コマ回し、お手玉等）、ペタンク大会等、体験を通して高齢者から学ぶ活動（小学校） 運動会や学習発表会等、学校行事に高齢者や地域の方を招待しての、交流活動（小学校） 地域が行っている独居老人への手作り弁当配りや高齢者訪問に合わせて、児童の手紙やメッセージ付きのしおりを渡す活動（小学校） 福祉施設を訪問し、施設の概要を学習したり、利用者と触れ合ったりす	小・中学生による取組は、地域との交流を深め、地域を愛する心を育むものとして高く評価できる。 高齢者や地域から学ぶだけでなく、ともに学び合ったり、小・中学生から発信したりする活動もあり、交流の内容や方法にも工夫がみられる。	各小中学校で地域との交流が深められる事業を継続して実施していく。 感染症対策を十分に 行い、福祉施設での交流を計画していく。	学校教育課	P70																		

No.	目 標 評価指標 (a)	第 9 期計画における 主な取組		実施状況 (b) 令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	実施状況 (c) 令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	評価	課題と対応	関係部署	計画書 (頁)
				地域のウォーキング大会や夏祭りに家族で参加する地域との交流活動（小学校） 社会福祉施設でのボランティア活動を通じた交流（中学校）	る活動（小学校） 高齢者等福祉施設での職場体験学習（中学校） 社会福祉協議会が行っているボランティア活動やイベントへの希望者の参加（中学校）			学校教育課	P70
		○民生委員や関係機関団体との連携		市社会福祉協議会とともに、民生委員や地区社会福祉協議会の活動を助成し、連携して地域福祉活動を推進した。	市社会福祉協議会とともに、民生委員や地区社会福祉協議会の活動を助成し、連携して地域福祉活動を推進した。	民生委員や関係機関団体との連携・支援ができています。	市社会福祉協議会とともに連携を深め、支援を継続していく。	ふくし課	P70
		○シルバー人材センターの会員増に向けて広報活動		普及啓発として、働く意欲のある方の入会促進を図った。 R7.3 末現在 ・正会員数 349 人 ・就業実人数 218 人	普及啓発として、働く意欲のある方の入会促進を図った。 R8.3 末現在 ・正会員数 342 人 ・就業実人数 214 人	普及啓発ができています。	会員増に向けて、就業意欲の高い 70 歳以上のかたの入会者が増えるように努める。	ふくし課	P70
		○閉じこもり予防のため、住民主体の通いの場設置への支援		通いの場を設置する支援はできなかったが、継続して運営できるように、出前講座等により講師派遣を行った。	通いの場の継続運営の支援として出前講座等により講師派遣を行った。 また、地域のかたが集える場を作るため、地域の関係施設と協力し、通いの場を 1 か所設置した。	地域と連携を図り、通いの場を設置することができた。	通いの場の設置に向けて、地域のニーズの把握や市社会福祉協議会との連携が必要である。 また、地域住民が気軽に集まれる場の情報提供等を行う。	かいご課	P70